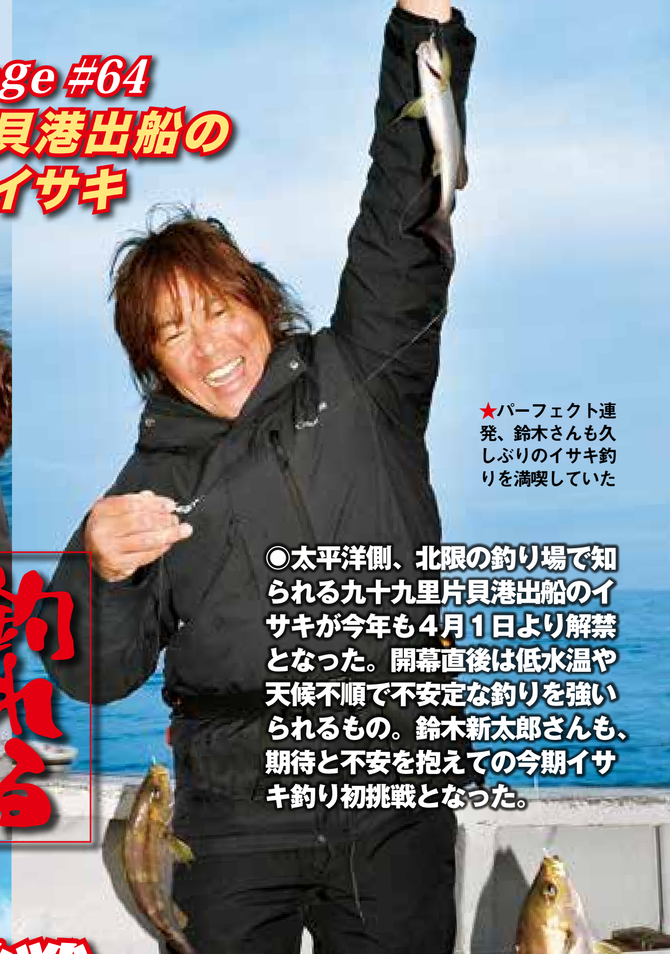
Challenge #64
九十九里片貝港出船のライトイサキ

鈴木新太郎 開幕直後、北限のイサキに挑戦 終始入れ食いの好スタート

釣れる釣れぬは糸次第

★イサキは鈴木さんのお家芸、追い食いのテクニックは見ものでもある



★パーフェクト連発、鈴木さんも久しぶりのイサキ釣りを満喫していた

◉太平洋側、北限の釣り場で知られる九十九里片貝港出船のイサキが今年も4月1日より解禁となった。開幕直後は低水温や天候不順で不安定な釣りを強いられるもの。鈴木新太郎さんも、期待と不安を抱えての今期イサキ釣り初挑戦となった。

★投入直後から入れ食い状態

▲二三丸は40号のビシを使用、船宿で無料貸し出ししてくれる

▶付けエサにはオキアミとアオリイカの切り身が付いている

外房をメインに活躍する鈴木新太郎さんにとって、イサキは欠かせない釣り物。例年どおり、4月に開幕するのが九十九里～外房エリアからの出船。

4月6日、まずは足慣らしと釣行したのは九十九里片貝港の二三丸。総勢7人の釣り客とともに4時出船となった。

釣り場の太東沖大根は「北限のイサキ」としても知られている。このポイントはイサキ以外にマダイ、ハナダイ、メバルなども釣れる好ポイントだが、開幕直後だけに不安もぬぐえないところ。それでも、

「久しぶりのイサキ釣り、とても楽しみです」と鈴木さんは釣る気満々。

ナギの海を1時間ほど走ってポイント着。まずは水深50メートル前後、タナ40～42メートルの指示で釣り開始。二三丸はビシ40号のライトスタイルなので、ゲームロッド（ライトアジなどの竿）で十分、コマセを絞って食いを持続させる効果もあるという。

鈴木さんは自製の3本バリを付け、さっそく第1投となった。タナ下3メートルからコマセを振り、きっちりタナで止めると、すぐにアタリ到来。少しずつ巻きながら追い食いさせ、巻き上げると、いきなり3尾掛け。サイズは25センチ前後だったが、今期初めてのイサキでいきなりパーフェクト。

船中でもあちこちで竿が曲がり、開始早々イサキ祭りとなる。鈴木さんも2尾、3尾掛けと数をのばすが、1時間もすると食いが収まってくる。

次の移動では35メートルの浅場、タナ25～28メートルの指示。この場所移動も大正解だったようで、2投目からまたまたパーフェクト。サイズもひと回りよくなって、30センチ級も顔を出すようになった。

いい調子で釣っていくのはいいが、このままのペースでは間もなく規定数（50尾）に達してしまいそう。船長はそんな状況を見越してか小移動。

「ここはハナダイも交じるので、先バリにオキアミを付けてもいいですよ」

するとイサキに交じって25～30センチ級のハナダイ、マダイ、メバルなども交じってにぎやかな五目釣りとなり、そのまま11時の納竿を迎える。釣果は21～37センチを23～50尾、もちろん鈴木さんは竿頭だった。

「今期初でこれだけ釣れれば見通しは明るいですね」と、船長ともども納得の表情で帰港となった。

▲35センチ前後の大型も

▲指示ダナの上2メートルまで探っていく

▲開始1投目からパーフェクト

▲後半はハナダイ交じりでお土産確保

▲強い引きの正体はカンパチだった

▲メインは25センチ級
◀乗船者も徐々にペースアップ

SHINTARO SUZUKI'S ONE POINT

「シーガー使って今日も快釣」
鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★「イサキ釣りなら鈴木新太郎さん」と言われるほどの名手、さっそく今日の仕掛けを解説していただこう。通常の仕掛けはハリス1.5号の3本バリだが、鈴木さんはハリス1.5号、枝スを1.7号とやや太くしている。いずれもシーガーグランドマックスである。夜光玉もなしのシンプルな仕掛け、この日は終日カラーバリの空バリで釣っていた。

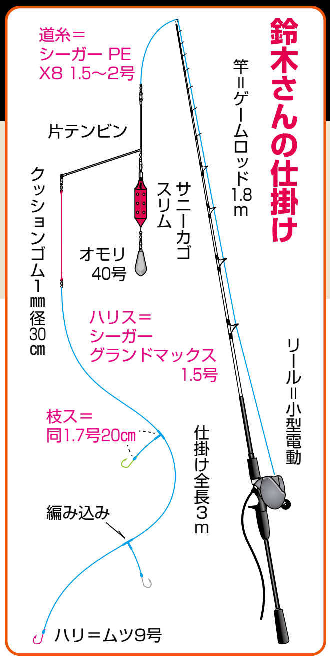
「枝スは損傷しやすいので少し太くしてあります。ハリスが切られることはないでしょ」確かにそのとおり、接続部分は編み付け補強までしてある。硬めのシーガーグランドマックスを使うのは、仕掛けに張りを持たせるためだとのこと。

▲ハリスにひと回り太い1.7号を使うのがキモ

シーガーグランドマックス
◉0.3～10号、各60m巻き、メーカー希望本体価格3200～6000円

▲掛け枠に巻いて持参するのが鈴木さん流
◀カラーバリはピンク、白、グリーンで蛍光玉は付けない

鈴木さんの仕掛け



◉Presented by Kureha Gohsen　問い合わせ／クレハ合織（株）☎0282・82・1927

◉取材協力／九十九里片貝港　二三丸 ☎0475・76・9957（詳細は巻末の情報欄参照）